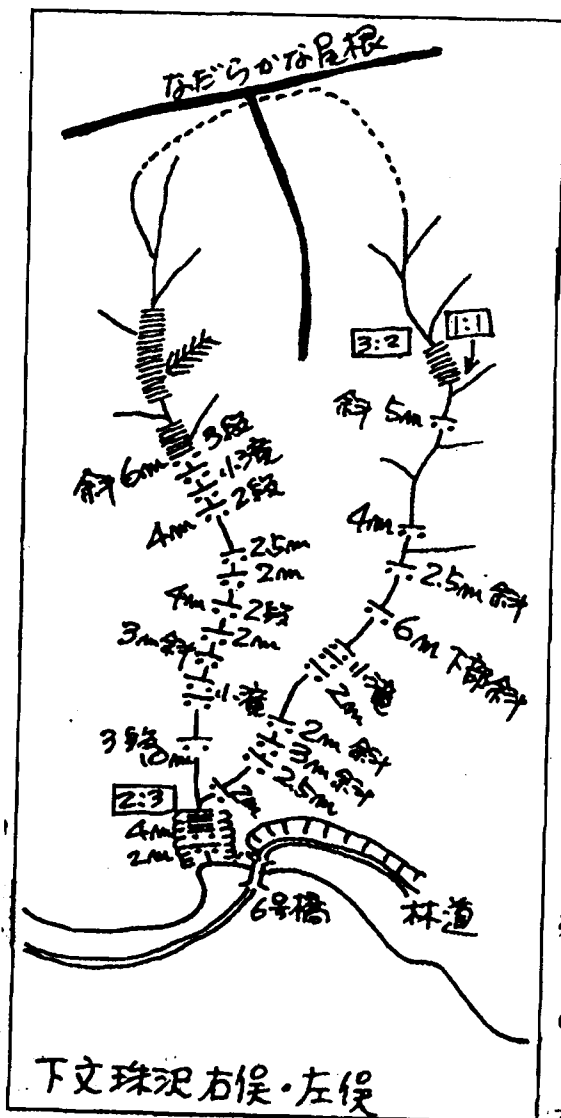


現する。階段状であるので、クライミングダウンしたり、ブッシュを利用したりで、快調に降りることができる。途中6m級の滝1本をアップザイレンで下ると、そう大きな滝はなくなる。

倒木にうまった小滝をいくつか越すと、針金で編んだ網みの中に石をつめて積んだ「ふとんかご」堰堤が出てくる。注意して見ないと見逃すほど古い小さな堰堤である。

それを過ぎると、1~2mのナメ状の小滝が連続する小さなゴルジュ。そしてその先は小滝をいくつか越してトイ状の流れとなる。両足をふんばりながら通過すると、すぐ鳥川林道の第4号橋である。



このリョウゲン沢は、沢の長さの割に滝が多く、ほとんどが直登できる。登りの沢として使った方が楽しいのではないかと思う。

(記・)

[タイム] 下降開始(10:55)→第4号橋(12:55)

下文珠沢右俣

1985年9月28日

L

飯坂温泉からバイクを使って下文珠沢へ。1時間程で鳥川林道6号橋へ到着。身仕度を整えて、林道から踏跡にそって下文珠沢出合に降りる。

出合に立つと、連瀑となって滝がかかる。左岸なら濡れないで登れるが、今日はシャワークライミングを楽しみながら直登する。

すぐ二俣となる。右俣には2m程の小さな滝がかかっている。水量は、2:3で右俣の方がいくらか多い。右俣に入って遡行を続ける。

右俣は、次から次へと適当に滝が出てきて、あきることはない。簡単に直登でき、沢の入門コースとして最適である。

左岸から支沢が入り、4 mの滝を越すと、沢は明るくなり伐採地に出る。さらに進むと、やがて沢は傾斜を増してくる。約1時間登った所で進行終了とする。あとは左俣めざしてヤブをこぐ。20分でなだらかな尾根に出た。ヤブはそう濃くない。

(記)

[タイム] 烏川林道6号橋(10:50)→下文殊沢出合(10:55)→二俣(11:05)→進行終了(12:00, 12:10)→尾根(12:30)

下文殊沢左俣(下降)

1985年9月28日

L1

右俣の進行を終えてから左俣の下降に移る。尾根のヤブはそう濃くなく、楽に下降点に移動できた。

すぐに沢の上部に出る。源頭は落葉で覆われていた。多少肌寒く、沢歩きの季節としては少々遅いようである。

下降を開始し、いくつかの支沢を合わせると、沢床はナメとなる。沢全体がナメのようであるが、所々倒木や石がつまっていたり、景観がだいなしである。

最初の滝は、左岸からの小沢が合わさる3段になった6 mの斜瀑である。あとはもう大きな滝はなく、1~2 mの小滝が出てくる程度である。最後に3段の連瀑となったのがせめてものなぐさめであった。

右俣を合わせ、烏川との出合まで降りて下降終了となる。(記)

[タイム] 下降開始(12:40)→右俣出合(13:50)→烏川出合(13:55)

三本松沢左俣(下降)

1985年9月22日

]

杭甲山山頂より北側のコルに向けてヤブをこぐ。ここにはかすかな踏跡が残されているが、ほとんどヤブにうめつくされようとしている。

コルより下降開始。すぐ沢に出て、8×12 mのナメ滝。これを降りると、すぐ左岸から4 m滝をかけて小沢が合流する。ここで昼食をとり、再び下降再開。

小滝を越すと、今度はミニゴルジュ。しかし、通過に困難はない。やがて、5 m前後の小滝が連続するようになるが、いずれの滝もクライミングダウンにて下